

【指導案の書き方】
 ・形式は実習必携 P 1 6 参照。
 ・指導案はA 4 で作成。
 ・B 4 にまとめて印刷し、提出。

タイトルはゴシック体
 本文は明朝体

第〇学年〇組〇〇科学習指導案

令和 2 年〇月〇〇日 第〇校時
 場所 〇〇年〇組教室 指導者 〇〇 〇〇

1 単元 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

教科・領域によって単元ではなく題材と表現するので、確認すること。

2 単元について

① 本単元は、〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

単元の本質観 (単元のねらい、単元の価値、教師の思いや願い) を書く。
※教育実習必携 P 1 7 には、単元のねらいしか書かれていないので、各教科の指導案例を参考とすること。

- (書き方の例) → 3 文程度で書く。
 ① 「本単元は、～をねらいとしている。」 (単元のねらい)
 ② 「～できる単元である。」 (単元の価値)
 ③ 「～できる力を身につけさせたい。」 (教師の思いや願い)

② 子どもたちはこれまでに、〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

※教育実習必携 P 1 8 参照。指導書等を参考に書く。
 系統観とは、子どもたちがこの単元までにどんな学習を重ねてきているのか、そしてこの単元後にどんな学習につながっていくのか、学年と単元の内容を中心に記述する。

③ 本単元に関する子どもの実態は次のとおりである。(調査人数〇〇人)

- ① 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 ② 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 ※本単元を進めるにあたり、必要な子どもの実態をアンケート等で調べる (レディネステスト)。
 ③ 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

④ 本単元の指導に当たっては、次の点に留意する。

- ① 指導観 (本単元、本時における具体的な教師の手立てとその意図を書く) ※実習必携 P 1 9 参照
 ② ① 本単元の導入では、～ (単元の導入における手立てを書く)。
 ② (単元を通して、特筆すべき大事な手立てを書く)。
 ③ 特に、本時の学習については、次の点に留意する。
 ・書き方の例① 「(子どもが) 〇〇することができるように、(教師が) △△する。」
 ・書き方の例② 「(教師が) △△することで、(子どもが) 〇〇できるようにする。」
 ※この④の③が、**本時における**授業者の主張 (授業の見どころ) である。

3 単元の目標

① 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 学習指導要領に対応させて書く。 ※実習必携 P 1 9 ~ 2 0 および各教科の指導案例を参照

- ② 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 (1) は「知識及び技能」
 ③ 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 (2) は「思考力、判断力、表現力」
 ④ 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 (3) は「主体的に学習に取り組む態度」

4 指導計画 (〇時間扱い)

- ① 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇時間
 ② 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 ※指導書や作成例を参考に単元全体を見通した指導計画を記述する。 〇時間
 ③ 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇時間 (本時)
 ④ 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇時間

